

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-08

まえがき

比嘉, 実

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

18-19

(発行年 / Year)

1995-02-24

まえがき

新聞の報道等を通じましてすでにご承知のことと思いますが、当研究所所員の中本正智さん（東京都立大学教授・文学博士）は1994年2月24日午後11時、入院先の病院において呼吸不全のためにご逝去いたしました。謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

先生がお亡くなりになる1月前に奥様から「今日は主人の調子が良いです。先生のご都合がよければ是非きていただきたいのですが」という電話を研究所にいただいた。電話をうけた村井主任の話によれば奥さんの声がとても明るく聞こえたという。すぐに私は上福岡の入院先の病院に駆け付けました。中本さんは日差し一杯差し込んでいる南側の窓の近くのベッドに横になっておられた。明るい日差しを受けて顔は元気なころよりも朱色をおびているように思えた。「お父さん、比嘉さんがお見えになりましたよ」と奥さんが軽く肩を揺すると両方の眼を開けて私をじーっと見つめておられた。しばらくして、はっきりとした口調で「やあ、比嘉くん」と語りかけてきました。この前お目にかかった時には目を開けることさえ不自由な感じがした。その回復ぶりに、このまま良くなってくれることを心の中で念じておりました。その日が中本さんと永遠の別れになろうとは夢にも思いませんでした。沢山の仕事を成し遂げられた中本さんでしたが、これまで以上に独創的な研究が展開されることを友人誰もが期待し、というより当然そうなるものと考えていました。幼いころ漁師できたえた頑健な体がこんなに早く病魔に侵されることなど誰一人想像していませんでした。天を恨むのみです。

中本さんは当研究所の発展に永いことご尽力下さいました。特に『琉球の方言』は編集の総責任者としてその刊行に多くのご協力を賜りました。追悼号は『琉球の方言』でやるのが中本先生に最もふさわしいと考えました。追悼号は追悼文、年譜・著者論文目録・著作の紹介・書評、座談、論文篇の4本だての構成にしました。多くの文章と論文が寄稿されたことを喜んでおります。友人各位のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。お陰様で中本先生のお人柄、学問を理解するのにふさわしい内容になったと思います。中本さんのまかれた学問の種子が豊かに実ることを祈り、先生が愛着をもって編集された『琉球の方言』をますます充実したものにしたいと考えています。先生方にはこれまで以上のご協力をお願いいたします。

1994年12月15日 八重山調査にでかける前の日に記す

法政大学沖縄文化研究所

所長 比嘉 実